



平成20年 9月 5日

各 位

会 社 名 国際放映株式会社
 代表者名 代表取締役社長 新江 幸生
 (JASDAQ・コード9604)
 問合せ先責任者 取締役経理・関連会社担当
 津屋 明彦
 電 話 03-3749-7213

役員退職慰労引当金の計上に伴う特別損失の発生に関するお知らせ
 並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成21年1月期中間期より、役員退職慰労引当金を計上することとしました。また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年5月23日に於いて平成21年1月期 第1四半期財務・業績の概況で公表した平成21年1月期（平成20年2月1日～平成21年1月31日）の中間業績予想（連結・個別）及び通期業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 役員退職慰労引当金を計上する理由

従来、役員退職慰労金は支給時の費用として処理しておりましたが、期間損益の適正化及び財務内容の健全化を図るため、改正された「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成19年4月13日 監査・保証実務委員会報告第42号）を当中間期より適用し、役員退職慰労金規定（内規）に基づく期末（中間）要支給見込額を役員退職慰労引当金として計上する方法に変更することといたしました。

2. 業績に与える影響

この変更により、過年度発生相当額 23 百万円は特別損失に計上する予定です。

3. 業績予想の修正

(1) 平成21年1月期 中間(連結)業績予想数値(平成20年2月1日～平成20年7月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	1,592	106	90	46
今回修正予想 (B)	1,384	69	55	5
増減額 (B-A)	△207	△36	△34	△40
増減率 (%)	△13.0	△34.4	△38.6	△88.9
(ご参考) 前年同期実績 (平成19年7月中間期)	1,654	155	143	76

(2) 平成21年1月期 通期(連結)業績予想数値(平成20年2月1日～平成21年1月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	3,192	194	162	82
今回修正予想 (B)	3,576	180	151	56
増減額 (B-A)	383	△13	△11	△26
増減率 (%)	12.0	△7.0	△7.2	△31.8
(ご参考) 前期実績 (平成20年1月期)	2,871	197	170	63

(3) 平成21年1月期 中間(個別)業績予想数値(平成20年2月1日～平成20年7月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	1,429	92	78	40
今回修正予想 (B)	1,240	65	52	13
増減額 (B-A)	△189	△27	△26	△27
増減率 (%)	△13.2	△29.6	△33.2	△67.5
(ご参考) 前年同期実績 (平成19年7月中間期)	1,525	139	130	68

(4) 平成21年1月期 通期(個別)業績予想数値(平成20年2月1日～平成21年1月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,943	173	144	72
今回修正予想 (B)	3,269	156	129	52
増減額 (B-A)	325	△16	△14	△20
増減率 (%)	11.1	△9.3	△10.3	△28.0
(ご参考) 前期実績 (平成20年1月期)	2,621	198	174	52

4. 業績予想の修正の理由は下記のとおりです。

①修正の要因の第一は、先に述べた役員退職慰労引当金の計上によるものであります。特に当期純利益の減少は特別損失に計上した過年度額による一過性のものであります。

②売上面におきましては、当中間期は、ドラマ番組制作収入及びコンテンツ収入の一部が下期へずれこんだこととレンタルスタジオ収入及び情報番組系の制作収入は伸び悩んだことにより、連結、個別共に減収となりました。

通期に於いては、当初、見込んでいなかったドラマ番組の受注等もあり、増収を見込んでおります。

③利益面におきましては、中間期、通期ともにドラマ番組制作の利益率は依然として厳しいものがあり、また、2スタジオを長期賃貸からレンタルへ営業形態を変更したことに伴うスタジオ運営原価の増加及び長期賃貸スタジオの営繕費用の増加及び、コンテンツ収入も利益率の高い作品に恵まれず、ハイビジョン化に伴う素材費等も増加しております。

以上により当初の見込より、中間期は個別業績の売上高は189百万円の減収、営業利益は27百万円、経常利益は26百万円、当期純利益は27百万円、それぞれ減益となります。通期においては個別業績の売上高は325百万円の増収ではありますが、営業利益は16百万円、経常利益は14百万円、当期純利益は20百万円、それぞれ減益となります。

④連結業績の修正理由は、個別の上記修正要因を反映したものであります。

(注) 上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は今後様々な要因により、予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上